

Sustainable時代の観光とエコツーリズム

JTREC 観光情報流通研究会

10月例会



熊野古道の地域住民による
エコツアーガイド



高梨 洋一郎

一般社団法人 日本エコツーリズム協会副会長
Japan Ecotourism Society(JES)



- 1) エコツーリズムが目指すもの
- 2) エコツーリズムの沿革
- 3) 日本型エコツーリズムの特徴
- 4) 日本エコツーリズム協会の課題

エコツーリズム：様々な定義

その地域の自然環境を保護し、地域住民の生活を高めることにつながる、責任ある旅行

国際エコツーリズム協会 TIES

『エコツーリズムは、自然地域の中で観察し、研究し、楽しむ観光である』

国際自然保護連合 IUCN

訪問先の自然環境を破壊することなく、その土地特有の自然、生活文化などの資源を持続させていく旅行の概念

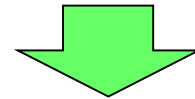
西表島エコツーリズム協会

自然を中心として、その土地に存在する生態系を守り、インパクトを最小限に使用とするツアーを実践する運動

日本旅行業協会 JATA

JESの考えるエコツーリズム

- ①自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かした観光を成立させること
- ②観光によってそれらの資源が損なわれることがないよう、適切な管理に基づく保護・保全をはかること
- ③地域資源の健全な存続による地域経済への波及効果が実現すること



エコツーリズムとは、

観光業の成立＋資源の保護＋地域振興の融合を
めざす観光の考え方

(日本エコツーリズム協会、1998年)

エコツーリズムの概念(豪)

Nature-Based Tourism

+

自然をフィールドにした産業としての観光

Sustainable

+

持続可能

Ecologically

生態系に配慮した

Ecologically Sustainable Tourism

エコツーリズムとは

その地域固有の自然資源を
保全しながら観光資源として活用し
経済・社会の活性化を図る実践活動

環境にやさしい観光
ネイチャーツーリズム

Responsible Tourism(米エコツーリズム協会)

エコツアーリズム：経緯と流れ（世界）

70年代
エコツアー
誕生

- ・1972: 国連人間環境会議(ストックホルム)
- ・1978: 「ガラパゴス諸島」など第1号世界自然遺産登録
- ・1980: UNEP、IUCN、WWFの「世界環境保全戦略」
⇒ 「持続可能な開発」という概念が初めて提唱
- ・1982: IUCN「第3回世界国立公園会議」
⇒ 「エコツアーリズムが資金調達機能のとして有効」

80年代
エコツアー
リズム誕生

- ・1985: UNWTO、UNEP「環境と観光に関する共同宣言」
- ・1990: **国際エコツアーリズム協会(TIES)設立**
- ・1992: 環境と開発に関する国連会議(リオデジャネイロ)
⇒ 「持続可能な開発委員会(CSD)」設立
・「地球環境変動枠組条約」
・「生物多様性条約」

90年代
日本
上陸

- ・2002: 持続可能な開発に関する世界サミット(ヨハネスブルク)
「世界エコツアーリズム・サミット」(ケベック)
⇒ **国際サステイナブルツアーリズム年**
- ・2012: 国連持続可能な開発会議(リオ+20)

2015: SDGsの設定

環境は宇宙船地球号の根源的な課題

1992年 リオでの地球サミット

持続可能な開発なくして人類の未来はない



サステナブル・デベロップメント
持続可能な開発(アジェンダ21)



国連が2002年を国際エコツーリズム年に指定

日本

環境大臣の主宰で「エコツーリズム推進協議会」を開催(2003年)

「エコツーリズム推進法」が成立(2007年)

観光庁がニューツーリズムの一環としてエコツーリズムに本格取組

エコツアーリズム：経緯と流れ（日本）



- ・1989: **小笠原ホエールウォッチング協会設立**
- ・1991: 環境庁 エコツアーリズム調査実施(沖縄)
- ・1993: 「**白神山地**」、「**屋久島**」世界自然遺産登録
- ・1996: **西表島エコツアーリズム協会設立**
- ・1998: **日本エコツアーリズム協会(JES)設立**
- ・2002: **国際エコツアーリズム年**
 - ⇒ 国際エコツアーリズム大会(沖縄)開催
 - ⇒ 北海道アウトドアガイド制度発足
 - ⇒ 小笠原で自主ルール設定
- ・2003: 環境省「**エコツアーリズム推進会議**」
- ・2004～2006: **エコツアーリズム推進モデル事業**
- ・2005: 「**知床**」世界自然遺産登録
- ・2007: 「**エコツアーリズム推進法**」 **成立**
- ・2011: 「**小笠原諸島**」世界自然遺産登録

ダーウインの島を救ったエコツアーリズム

ガラパゴスの例



自然資源の乱獲に歯止め／環境保全のための資金確保

野生動物の保護・活用が地域経済を救う

東アフリカの例



フォートラベル:Kyonoさん提供

ライオン1頭の価値？

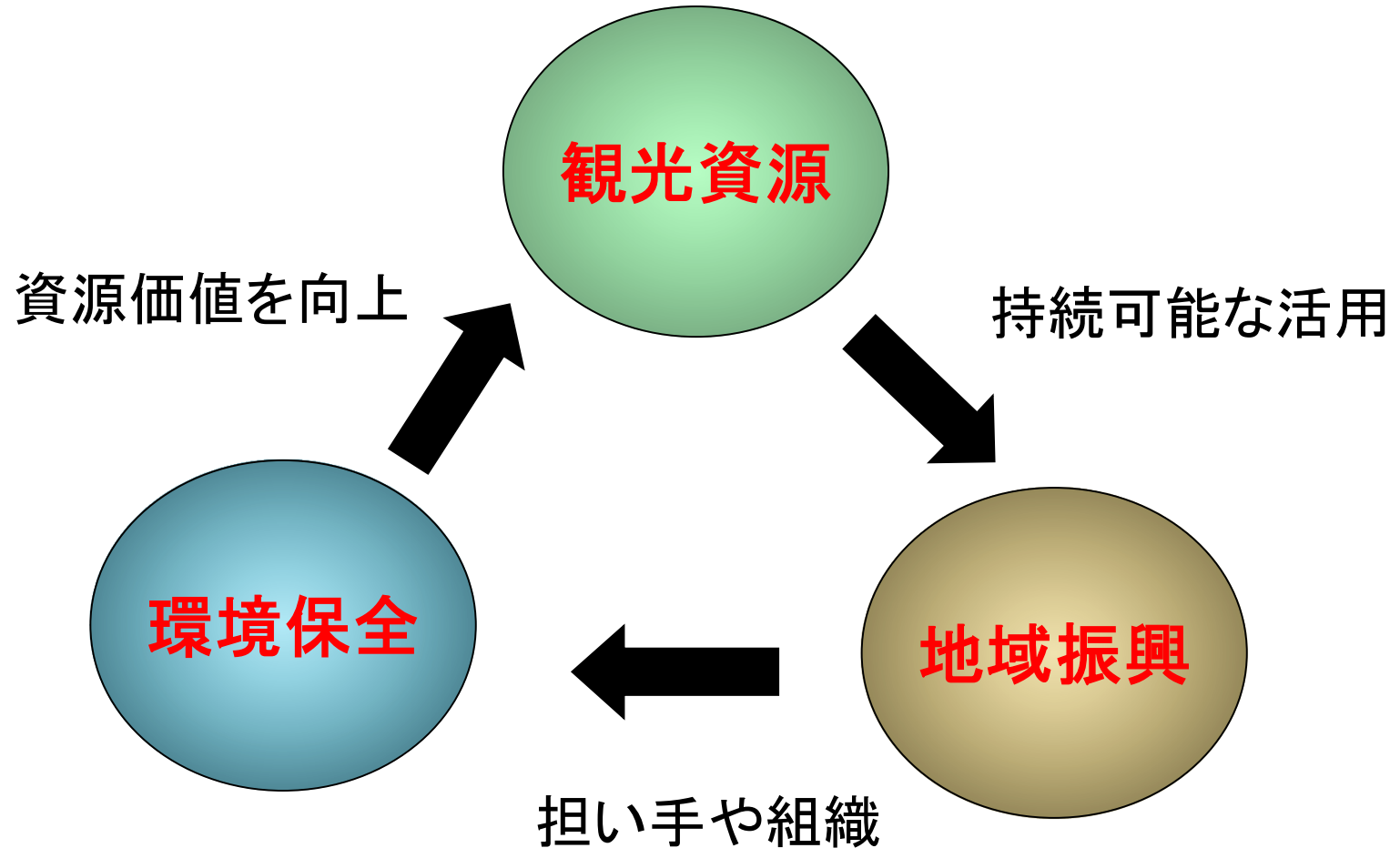
\$ 1,325

\$ 8,500

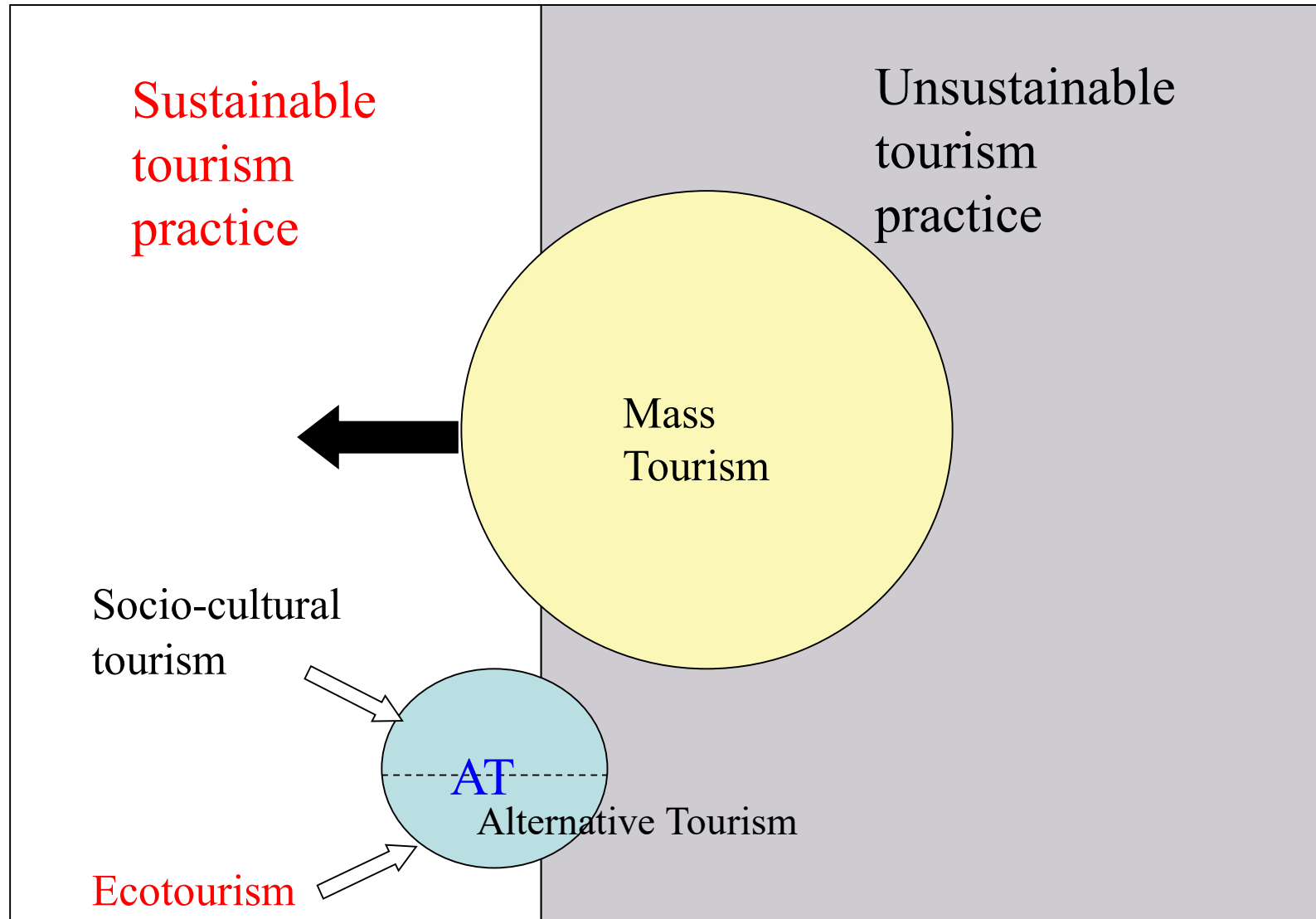
\$ 515,000

1981年:ピーター・スレッシャー博士

エコツーリズムは円運動

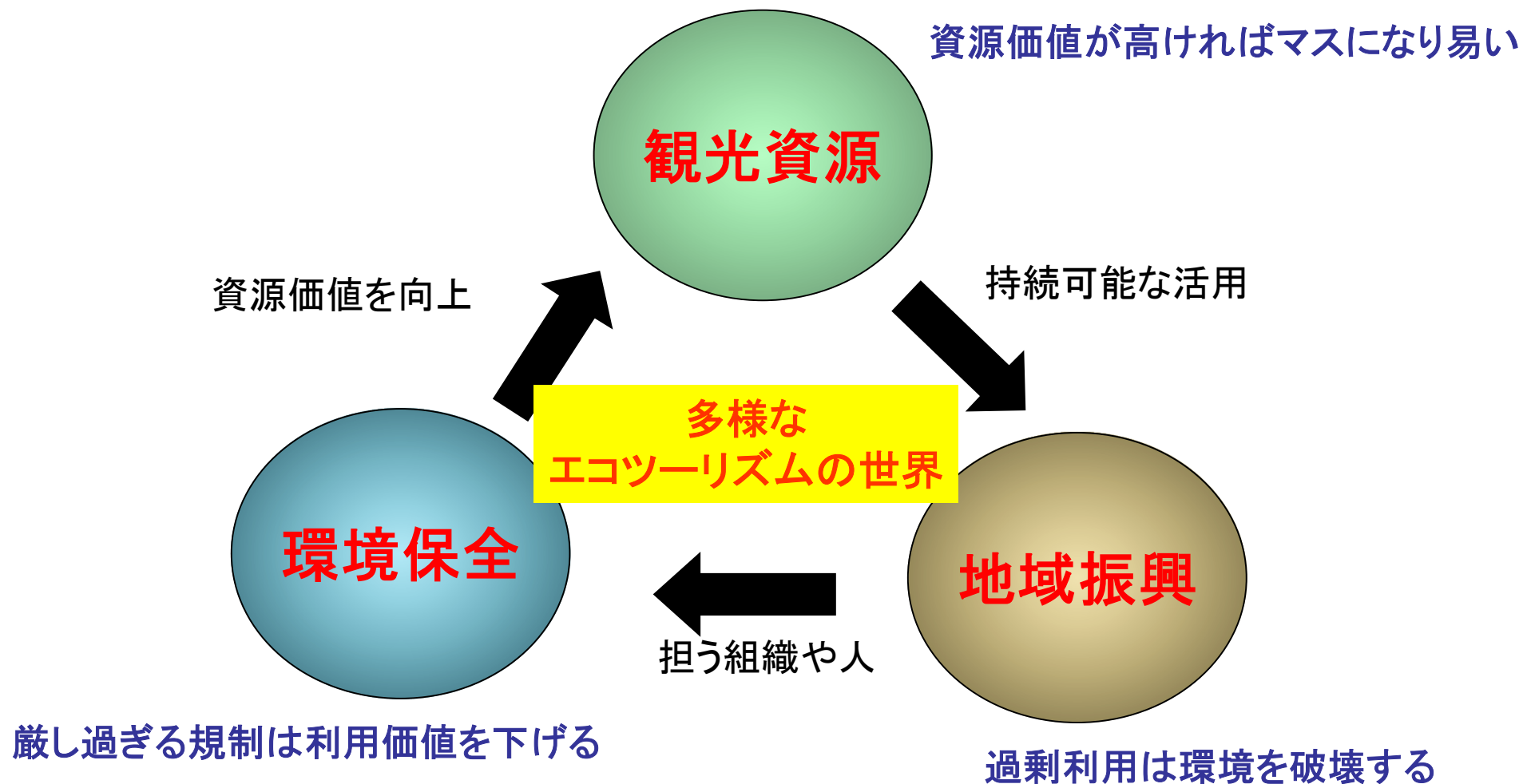


エコツーリズムとマスツーリズム



David A Fennell 「Ecotourism」 (1999年)

エコツーリズムの多様性について



Principleはひとつ、Practiceは多様に

エコツーリズム推進政策の推移

国際連合

国際エコツーリズム年(2002年)

エコツーリズムは、自然環境保全、地域振興(貧困からの脱却等)の手段として有効な手法

日本政府

(2003年11月)

エコツーリズム推進会議の開催

エコツーリズムへの本格的な取り組み開始

(2008年4月)

世界初の「エコツーリズム推進法」が施行

エコツーリズムのいろいろな形

- 自然環境保全資金の確保（国立公園等の保護地域の生態系保全） 先進国型
- 自然資源収奪産業から持続可能な産業への転換
中進国や途上国型
- 貧困からの脱出と自律可能な経済・社会の構築
途上国型
- 地域資源を活用した分散型観光への転換（マストツーリズムからの脱却）
世界共通

エコツーリズム推進モデル事業の3タイプ

(2004年～2006年)

- 豊かな自然の中での取り組み 知床など4カ所
(典型的エコツーリズムの適正化)
- 多くの来訪者が訪れる観光地での取り組み
(マスツーリズムのエコ化) 六甲など4カ所
- 里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化
を活用した取り組み 埼玉県飯能など5カ所
(保全活動実践型エコツーリズムの創出)



日本型エコツーリズム

豊かな自然の中での取り組み

(典型的エコツーリズムの適正化)

知床地区

(北海道斜里町及び羅臼町)

白神地区

(青森県西目屋村及び秋田県藤里町)

小笠原地区

(東京都小笠原村)

屋久島地区

(鹿児島県土屋久町及び屋久町)

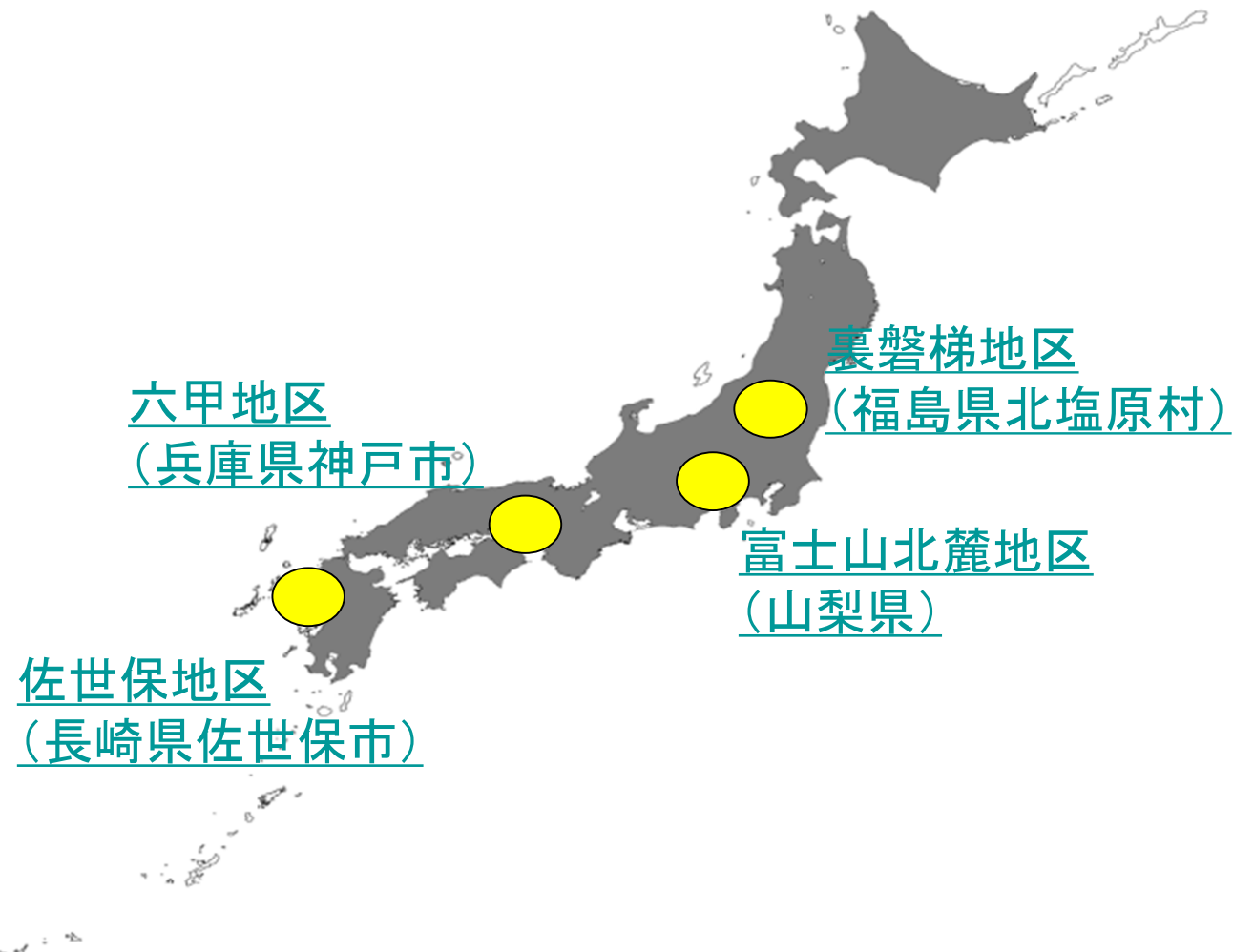


知床地区



多くの来訪者が訪れる観光地での取組み

(マスツーリズムのエコ化)



富士山北麓



里地里山や地域文化を活用した取り組み

(保全活動実践型エコツーリズムの創出)



世界遺産「熊野古道」



エコツアーリズム推進法の誕生

2007年6月成立・2008年4月施行

- 基本理念
 - 自然環境への配慮
 - 観光振興への寄与
 - 地域振興への寄与
 - 環境教育への活用
- 推進体制
 - 政府による基本方針の策定(2008年6月)
 - 推進体制の構築
 - 市町村単位の協議会の構築
 - エコツアーリズム推進全体構想の作成と政府による認定
 - 資源の保護と国による広報活動

* 環境省ホームページ

<http://www.env.go.jp/nature/index.html#ecotour>

全国に広がるエコツーリズム推進運動

エコツーリズム推進法で全体構想が認定された団体 (2018年4月現在)

(2019年に吉野川紀ノ川、阿蘇ジオパーク、赤城山などが新たに登録、合計17カ所)

- 下呂市エコツーリズム推進協議会 (岐阜)
- 檜原村エコツーリズム推進協議会 (東京)
- 奄美群島エコツーリズム推進協議会 (鹿児島)
- 串間エコツーリズム推進協議会 (宮崎)
- 愛媛県石鎚山系エコツーリズム推進協議会 (愛媛)
- 上市まちのわ推進協議会 (富山)
- てしかがえこまち推進協議会 (北海道)
- 小笠原エコツーリズム推進協議会 (東京)
- 南丹市美山エコツーリズム推進協議会 (京都)
- 名張市エコツーリズム推進協議会 (三重)
- 鳥羽市エコツーリズム推進協議会 (三重)
- 谷川岳エコツーリズム推進協議会 (群馬)
- 渡嘉敷村エコツーリズム推進協議会及び
座間味村エコツーリズム推進協議会 (沖縄)
- 飯能市エコツーリズム推進協議会 (埼玉)

エコツアー ≠ エコツアーリズム

エコツアーリズム

理念・概念・考え方・仕組み

エコツアー

珍しい生物・文化を観察
したり体験するツアー

自然文化体験活動

(例)
自然学校
スポーツ体験

住民が支えるエコツアーリズム(南紀・熊野)



旅館の若女将による鳥羽の地域興し



「活動市民の会」が支える埼玉・飯能市



活動市民の会メンバー



自然の生態系を説明



歴史の説明



自然の復元解説

得意分野を手分けしてエコツアーのガイド

国や地域によってエコツーリズムの形は 多種多様

自然環境や文化の成り立ちが違う

導入の目的も違う

しかし

観光の力を活用して環境や地域を守るという
エコツーリズムの理念や概念は同じ

エコツーリズムは国連が提唱するSDGs(持続可能な社会)の先駆け

文化資源をも対象とする日本型エコツーリズムはSDGsの目標
の殆どを含む

開発アジェンダの節目の年、2015年の9月25日-27日、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、開発アジェンダの節目の年、2015年の9月25日-27日、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



2015年の9月25日-27日、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する: 持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーを世界中にそしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさも守ろう
16. 平和と公正をすべてのひとに
17. パートナーシップで目標を達成しよう

NPOから一般社団法人化へ (JESの課題)

- 観光関連から周辺関連産業への活動拡大
- 啓蒙啓発推進団体からエコツーリズム事業の総合プラットフォームへ
- 体験型観光を含むプログラムづくりやガイド養成事業からマーケティング支援活動の強化
(エコツーリズム大賞、グッドエコツアー、ガイドやコーディネーター養成講座に加え多種少量型エコツアー商品の流通促進を強化する)

エコツーリズムを通じSDGsの達成を目指す

一般社団法人

日本エコツーリズム協会へのご理解とご支援を
宜しくお願い申し上げます

ご清聴ありがとうございました